通巻2765号 ＨＳＫ(季刊わたぼうしNo.83’10冬)　　2010年３月10日発行 第三種郵便物認可(1)

一九九四年八月四日 第三種郵便認可
ＨＳＫ毎月十二回（一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日）発行

HSK 季刊わたぼうし

NO.83
’10冬

お出かけ企画
ライトレールで行く富山市岩瀬浜Ⅰ

公約の
賞味期限は
すぐに来る
宮田 比呂雪

今回の目次

※お出かけ企画・ライトレールで行く岩瀬浜Ⅰ
・企画の経緯 2
・富山ライトレールとは 2
・富山駅前の交通手段 3
・富山駅前からライトレール富山駅北へ移動 3
・富山駅前北口地下道・広場中央 3
・富山駅前北周辺、富山駅前北 4
※地域サポートハウス・楽生
・施設の案内 6
・楽生の仲間たちを訪ねて 7
※「はくい車いす友の会“ゆうゆう”」買い物ツアー
・参加者のレポート報告 8
・今回の課題 9
※「HSK季刊わたぼうし」創刊25周年企画
・HSK季刊わたぼうし」25周年を迎えて 10
・祝「HSK季刊わたぼうし」25周年 今寺 忠造 12
・創刊25周年のあゆみ・テーマ表 13
※みんなの広場
・もっと介護の現場に外国人を 増山 進 15
※地域のホットなニュース
・プルタブを集めて車いすを贈る 16

この機関紙は障がいのある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的として発行しています。

お出かけ企画・ライトレールで行く富山市岩瀬浜Ⅰ

ライトレール始発駅・富山駅北

【企画の経緯】

今までの「ＨＳＫ季刊わたぼうし」は他の団体が企画した講演会、学習会のテープ起こしなどを利用して掲載していたことが多かったので、今回は自らが企画・実施し、報告してみようと思いました。

今回は以前「自立生活支援センター富山」において10日間の自立生活体験を行った時に、新しく富山市内に走った「ライトレール」に乗りました。「ライトレール」の紹介を兼ね、駅周辺のバリアフリー状況、観光地としての自然の紹介、おいしい飲食店のメニュー、車いす利用者が気軽に利用できる飲食店などの取材も「自立生活支援センター富山」と友人に協力をお願いして行いました。

【目的】

①「ＨＳＫ季刊わたぼうし」は外から情報が入ってくるのを待っている記事が多いので、自ら出かけて体験を行い、レポート報告する。

②ＪＲ富山駅から「富山ライトレール」の富山駅北までの移動手段のレポート報告。終着駅の岩瀬浜の観光地散策、歴史散歩、車いすで利用可能なお店のレポート報告。

【富山ライトレールとは？】

愛称・ポートラム。2006年４月29日開業。地域に密着した安全・安心・快適で環境にやさしい公共交通。

バリアフリーの低床車両を導入。車いすやベビーカーでも楽に乗り降りできます。

路面電車は道路混雑緩和や交通事故の削減、二酸化炭素や窒素化合物の削減などに効果がある環境にやさしい乗り物です。（ＨＰより）

【取材(1)の日程】2008年５月15日（金）

【取材協力】「自立生活支援センター富山」
職員２名、介助者１名

【当日のスケジュール】

AM７:30　青山彩光苑出発
AM８:05　ＪＲ七尾駅発－
　　ＪＲ金沢駅で乗り換え
AM10:20　ＪＲ富山駅着
AM11:00　富山駅北よりライトレール乗車
AM11:34　岩瀬浜駅到着、海水浴場散策
PM12:00　岩瀬カナル会館で食事
PM１:00　東岩瀬駅までの２駅分を徒歩散策
PM２:33　東岩瀬駅よりライトレール乗車
PM２:55　ライトレール、ＪＲ富山駅到着
PM３:55　ＪＲ富山駅発－
PM７:02　ＪＲ金沢駅で乗り換え
　　ＪＲ七尾駅到着
PM７:30　青山彩光苑到着

【取材(2)の日程】７月７日(火)

友人と富山駅周辺の写真撮影。

富山駅前周辺の交通手段

ＪＲ富山駅に降りて「富山ライトレール」に乗車するには富山駅北までへ移動する必要があるので、駅周辺の交通手段を紹介します。

ＪＲ富山駅正面

駅正面の歩道に通じるスロープ

いつも電車を降りてこのスロープから富山市内へ入って行きます。

ＪＲ富山駅前の路線バス乗り場

ハイブリッドバス＝スロープを出す場面

ハイブリッドバスへスロープから乗車

「ハイブリッドバス」写真提供は「自立生活支援センター富山」

富山地方鉄道は環境に優しい大型ハイブリッドバス（エコバス）をＪＲ富山駅と富山空港を結ぶ路線に取り入れ、１月30日から運行を始めた。高齢者や身障者も乗りやすい低床車両で、発進・停止に応じてエンジンを自動停止・始動させるシステムも導入している。

（「北日本新聞」ホームページより）

コミュニティバス「まいどはや」乗り場。
停車中のバスは富山地方鉄道です。

コミュニティバス「まいどはや」

「まいどはや」写真提供は「自立生活支援センター富山」

「ライトレール乗り場」へ行く場合、バスを利用しませんが、富山駅周辺の交通機関を紹介させていただきました。

富山駅前から地下道を通りライトレール富山駅北へ移動

富山駅前の地下道へ下るエレベーター

富山駅前から富山駅北口に通じる地下道

地下道はエレベーターを降りると写真のような通路になっております。

富山駅前北口地下道・広場中央

地下道中央「ちんどんからくり時計」

地下道中央の「ちんどんからくり時計」は、「子どもちんどん人形」が一時間おきに軽快な音楽を奏でます。

地下道中央・壁写真「立山連峰」

地下道から富山駅北のエレベーター

富山駅北エレベーター操作ボタン(車いす利用可能)

富山駅北周辺

ＪＲ富山駅から地下道を通り富山駅北に着きました。駅の周囲を見渡すと有名芸能人の公演が多く行われる「オーバード・ホール」があります。ここは岩瀬浜駅行きの始発駅です。

オーバード・ホール正面

オーバード・ホール正面全体

富山駅北

富山駅北に到着しました。２回目の写真撮影取材に出かけたとき、駅前に無料駐車場があり非常に助かりました。

富山駅北駅舎正面

富山駅北身障者トイレ

富山駅北ホーム

正面に見える大きな建物は北陸電力本社社屋です。

次号へ続く

一般社団法人「つながり」

地域サポートハウス・楽生（らっきい）

○目　的

・人と人のつながりの中で、ありのままを認めあえる場を作る。
・人と人がつながることで、誰もがゆるやかに成長することを支える。
・人と人がつながることで、愉快に、楽しく、生きることを目指す。

「楽生（らっきい）」の名前も、このことの意味からすぐに決まりました。

○サポート＋自立支援事業

・障害者就労継続支援（Ｂ型）／定員20名
知的、身体に障がいを持つ方々の仕事の支援をしています。
・草むしり、犬の散歩、墓掃除等の軽作業。
・オリジナル商品として、エコバック・麻ひもコースター・のれん等も制作、販売しています。チーズケーキも好評発売中。

○対象者

・県の指定は、知的障がい、身体障がいになっています。
・利用対象は、２障がいになっていますが、相談は乳幼児から高齢者まで受けています。
・相談事業については、県指定を受けていませんが、地域の中にある事業所です。自ずと、いろんな相談を受けている現状です。

○えんがわ喫茶「だいじょうぶだ～」

保健所から営業許可をいただき、本格的にオープンしています。コーヒー・紅茶・オリジナルチーズケーキ・（おまかせランチ350円、当日10時頃までに予約必要）。楽しいおしゃべり付きです。縁側からふら～とお立ち寄りください。

○事業所のオプション

一時預かりとして、お年寄りや子供たちの預かりをしています。

発達障がいの小学生、健常の保育園児を預かっています。いろいろな人が集い、共に時間を過ごすことで理解につながるし、子供たちの育ちあいの場となっています。「楽生（らっきい）」のメンバーの役割も生まれて来る場になっています。

○事業所認可

・地域サポートハウス「楽生（らっきい）」H21年5月1日認可
・ホームはっぴぃ（共同生活援助・介護）
H21年7月1日認可
・利用料は自立支援法により市町が決めます。個別減免あり。その他に食事代一日350円。
・利用申し込みは「楽生（らっきい）」まで。または市町福祉　課へ相談してください。

一般社団法人「つながり」
地域サポートハウス「楽生（らっきい）」
〒925-0025 石川県羽咋市太田町い15
TEL・FAX/0767-26-0807
E-mail:tunagari-lucky@ia1.itkeeper.ne.Jp

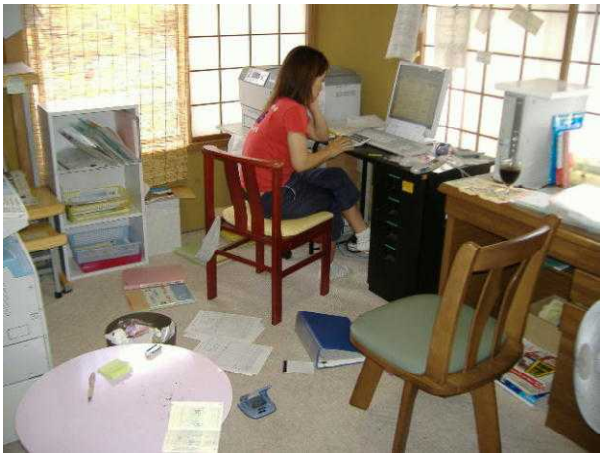
らっ　きい　　2009年8月11日(火)

「楽生」の仲間たちを訪ねてみました

民家の空き家で活動中。スロープがついて車いすでも利用が可能。

みんな揃って昼食。何のおかずかな?

山で木を切って来て、飾りもの、置物に加工。
オリジナル・エコバック、テーシャツ等も販売中。



サポートハウス長は事務処理に奮闘中。

みんな揃って、記念撮影。
出会うべき人と出会い、仕事をし、ともに過ごす。
すべてのことがつながり、今の「楽生(らつきい)」がある。

「はくい車いす友の会“ゆうゆう”」買い物ツアー

【開催までの経緯・目的】

障がいがある者にとって外出・買い物・外食は簡単にできるものではない。移送サービスなどの移動手段、介助者・ガイドなどの確保が必要です。

今回は障がい者１人とパートナー２人（介助側も交代で楽しむため）のグループで行動をする方法にし、障がい者が１人で出かける課題を知るために「イオンかほくの買い物ツアー」を行いました。

【日　時】　2009年６月27日(土)

【場　所】

イオンかほくショッピングセンター
　かほく市内日角タ25番

※「イオン」は「誰もが便利で快適に利用できる」ユニバーサルデザインの考え方を積極的に店舗づくりに取り入れ、2006年12月よりバリアフリー新法に基づき、独自の「イオンハートビル設計基準」を作成し、新店舗の建築や既存店舗の改築時に導入している。(イオンHPより)

【参加者】

車いす利用者４名(肢体３、頸椎損傷１)
肢体独歩４名　視覚１名　他障がい３名
介助者８名　県立看護大学の学生３名

【移動方法・使用車両】

・羽咋市文化会館～イオンかほく
　羽咋市社会福祉協議会の福祉バス
　車いす、電動車いす等は
　　社会福祉協議会の福祉車両「友抱号」
　　民間団体所有の福祉車両「はまなす号」

【イオンでの行動方法】

車いす利用者１人に対し、介助者２人を１グループにし、かほく市高松にある県立看護大学の学生が介助体験として加わり、障がい者の介助を行い、店内の設備等のバリアフリーチェックも行うツアーとしました。

店内に入る前の打ち合わせ

障がい者専用駐車場、12台分駐車スペースあり

【脳性麻痺Ａさんのグループの動きを紹介し、バリアフリーチェックと課題を報告】

脳性麻痺・電動車いす使用者、介助者２名、看護大学の学生１名の計４名。

・移動―電動車いす使用
・食事介助、お金の出し入れ介助必要。
・トイレは紙おむつ使用、一回交換が必要。

【エレベーターと食事介助】

正面玄関より２階の飲食街に向けて出発しました。通路はとても広く電動車いすを使用している方でも気軽に通行ができました。

私たちは昼食をとるためエレベーターに乗り２階のラーメン店に向かいました。エレベーターは操作ボタンが車いすでも届く位置にあり気軽に押すことができました。

エレベーターのドアの間口が広く、ドアの開閉がゆっくりで介助者が安心して介助ができるという意見も聞かれました。

ラーメン店は、早めの昼食時間にだったのですぐに入ることができ、店員さんも車いすが入りやすいように椅子を動かしてくれました。このラーメン店は有名な富山の黒ラーメンでした。Ａさんはいつも富山へ行ったときに食べているそうです。

食事介助がしやすいように介助者が横に座り、学生に介助方法を説明しながら食事をしました。特にＡさんは嚥下(えんげ)障がい(飲み込み)もあるので、早く口に入れないよう、食べさせ方に配慮が必要なことも教えました。

【店内散策・ショッピング】

昼食を済ませ、店内を廻ることにしました。電動車いすは、当然のことながら周囲にたくさんの人がいるから事故を起こさないように運転することが大切だと思います。子どもが走って廻る、押し車のお年寄りなど、危険がたくさんあります。電動車いすは人混みの多い場所ではスピードを出さないようにしましょう。

Ａさんのショッピングは毎週近くのスパーに出かけているから、そんなに困ったことはありませんでしたが、介助者がいることによって店員との会話が（Ａさんは言語に障がいがある）スムーズに行ったようでした。

Ｔシャツの品定め

ヤマダ電機を散策

今回の課題

今回の企画した目的は利用者自身が外出をするためには、何が必要で、何を準備しなければならないかを知るためでした。

今回は車いす友の会ですべてが準備されていました。これでは外出時の自分に必要なことも知ることができないと思います。

自分の障がい・体力・能力を知り、介助者を確保し、なるべく公共交通機関を使って移動・行動をしなければ、住み良い地域社会になっていかないと思います。

当事者が利用しないからＪＲ、バス会社にこれで良いのだと思われ、何も良くなっていかないのだと思います。地域を変えるのは誰でもない、障がい者自身の勇気ある行動だと思います。

「ＨＳＫ季刊わたぼうし」創刊25周年記念特集

皆様のおかげで「ＨＳＫ季刊わたぼうし」は今年(2010年１月)で創刊25周年を迎えることが出来ました。今回は25年の歩みを振り返る企画を組んでみました。

「ＨＳＫ季刊わたぼうし」25周年を迎えて

編集委員・桶屋　善一

皆さん、こんにちは。

私は七尾市にある身体障害者療護施設「青山彩光苑」の利用者です。昭和60年(1985年)から「ＨＳＫ季刊わたぼうし」の編集に携わっています。

さて、昭和56年(1981年)はどういう年だったでしょうか？覚えていらっしゃいますか？そうです。ゴダイゴの曲「ビューティフルネーム」が毎日、ＮＨＫのテレビ・ラジオで流れ「完全参加と平等」をテーマにした国際障がい者年10年のスタートの年でしたね。

その意義ある年に障がい者が書いた詩にフォークソングのメロディをつけて発表する「羽咋わたぼうしコンサート」が、昭和56年10月11日（日）に石川県羽咋体育館で開かれました。当日はとても良い秋晴れでした。

♪誰かが摘んでいたわたぼうし、
　ふうっと息をかけてご覧
　ふんわりふわふわ　ふんわりふわふわ

その後、石川県内では松任・七尾と３年連続でわたぼうしコンサートが開かれましたが「羽咋わたぼうしコンサート」に関わった人たちの有志で「羽咋わたぼうし会」が昭和57年４月17日に発足しました。

私は昭和58年(1983年)に在宅生活を送っているとき「七尾わたぼうしコンサート」の実行委員会の人たちと出会い、その年の12月に「羽咋わたぼうし会」の人たちと出会ったのです。

昭和59年(1984年)の夏に福祉事務所から電動和文タイプライターをいただき、会長さんから「羽咋わたぼうし会」の会員向けの会報「わたぼうし通信」のタイプライター打ちを依頼されたのです。その「わたぼうし通信」のタイプ打ちをしているうちに、施設の入所者・在宅障がい者・健常者が紙面を通じて交流を図る新聞を作りたいと「羽咋わたぼうし会」の会員に相談しました。それをまともに受け入れてくれたのは、当時の会長さんでした。

今まで羽咋・松任・七尾と３年連続の「わたぼうしコンサート」が開かれ、実行委員の方と障がい者の交わりがありました。しかし、コンサートが終了すると、お互いの生活があるために交わりが持てなくなることにずうっと疑問を持っていました。特に当時の私は在宅生活でしたので、寂しさは人一倍でした。

「わたぼうし通信」は「羽咋わたぼうし会」のためのもので、その中で会長さんと話し合っていき、自分の思いや、伝えたいこと、詩や俳句などの文芸、催し物紹介などを行うことで、施設入所者・在宅障がい者・健常者の誰もが紙面を通じて交流が図れる新聞にしたかったのです。それが「わたぼうし新聞」を発行したいと思った切っ掛けでした。

昭和59年(1984年)の暮れに、羽咋わたぼうし会の人たちの了承を得て、私の知り合いから原稿を数点いただき、昭和60年(1985年)１月に待望の「わたぼうし新聞」の創刊号を発行することができました。B4用紙表裏タイプ打ちでコピーで印刷して数人の方に配布したことが始まりです。

今、ここにある創刊号を見てみますと、わずか数人の投稿の新聞でしたが、温かみがあったと思います。原稿も現在のようにワープロもパソコンもありませんから、すべてが手書きでした。それを見ながらタイプライターで打っていったのです。あれから、25年の月日が流れ、数多くの方々にご協力いただき、号数にして82号まで発行してきました。

その後、平成３年(1991年)に石川県で開催された身障者国体「ほほえみの石川大会」で行われた、競技結果を全国の仲間に発信するパソコン通信に友人に誘われて参加したことにより、パソコン通信を通じて、自立生活支援センター富山の理事長と出会いました。その理事長さんたちによって平成６年(1994年)11月に各障がい者団体が発行している機関紙を低料金で郵送できるように、ＨＳＫ（北陸障害者定期刊行物協会）を設立されました。さっそく「季刊わたぼうし」（わたぼうし新聞から名称変更）も加盟させていただき「ＨＳＫ季刊わたぼうし」として第３種郵便物の認可を受けることができ、一部を８円という低料金で発送できるようになりました。

現在の「ＨＳＫ季刊わたぼうし」は以前と違い、投稿してくださる方の高齢化に伴い投稿記事は少なくなりましたが、逆に地域社会のバリアフリーが進んで、電動車いすに乗って私自身が出かけて取材することが多くなりました。今後の予定は富山ライトレールの取材、ＪＲ七尾・羽咋駅に設置されました階段昇降機のように地域での活動を中心にした記事を予定しています。

最後に「25周年に寄せて」とお祝いを投稿していただきました「青山彩光苑」苑長・今寺忠造さんに深くお礼を申し上げます。

昨年、ＪＲ羽咋・七尾駅に階段昇降機が導入され、乗車して取材を行い羽咋駅と七尾駅で写真展を開催しました。詳しい報告は次号より掲載させていただきます。

JR七尾駅での階段昇降機の写真展示

祝「ＨＳＫ季刊わたぼうし」25周年

社会福祉法人「徳充会」・青山彩光苑
苑長・今寺　忠造

「ＨＳＫ季刊わたぼうし」創刊25年、おめでとうございます。関係者の皆さまのご努力と熱意に心から敬意を表します。

さて、「ＨＳＫ季刊わたぼうし」の四半世紀の歴史は、当社会福祉法人「徳充会」の歴史と重なるところが多く、思い出が深いものがあります。昭和60年４月に青山彩光苑（現青山彩光苑リハビリテーションセンター）が開設され、編集者の一人であります桶屋善一さんが、当施設に入所ご利用となり、一生懸命編集に努力されていた光景が思い出されます。

先日、創刊号から最新号にいたる全82号分の新聞を拝見させていただき、その歴史の積み重ねとご尽力に感慨深い思いで一杯になりました。

昭和60年当時は、パソコンがなく、タイプライターで新聞記事を打つ時代でした。桶屋さんのタイプライターは電動であり、施設にあるものは手動式タイプライターであったので、スライド作りなどにお借りした記憶があります。タイプライターでの作業は、誤字や脱字があると、それを修正するには、大変な作業が必要でした。また、文字ポイント（大きさ）も一定であり、拡大コピーを貼り付けするなど、編集するのは大変な作業であり、創刊当時は、ところどころ手書きのタイトル等が見られ、当時を知る一人としては大変懐かしい気持ちとなりました。

その、昭和61年頃からはワープロの時代となり、10号発刊の時はワープロ編集でした。当時のワープロはプリンターの性能はもうひとつで、文字は少し滲んでいました。今では当たり前ですが、文字の大きさを変えることや文字形を変えることができることは、その時代では感動的な出来事でした。その後、編集の機器はパソコンへと進化するとともに、編集内容もとても充実され、回を重ねるごとに見事な構成となっています。

「ＨＳＫ季刊わたぼうし」の一番素晴らしいところは、障がいのある人、ない人が自由に考えを出し合い、主義・主張を越えて、お互いを理解し合う中から共に生きる豊かな社会を作っていくことを目的にしているところです。そして創刊当初から利用者の立場から視点を貫き、障がいを持つ当事者の本音や社会に対するメッセージをたくさん掲載しているところです。今でこそ、当たり前になってきましたノーマライゼーションの理念や考えも、当事者の意見や考えが書かれています。常に当事者からの視点で投げかけ、社会や様々な団体、市町村に良い影響力を与えて頂きました。意味のある素晴らしい活動です。

また、当施設職員をはじめ、新たな道に進まれた利用者ＯＢの皆さん、ご家族の皆さんの記事もたくさんありました。そして当施設の職員に自己改革の素晴らしいチャンスと発展のエネルギーを与えて頂きましたことを、心より感謝を申し上げます。

最後になりましたが、この「ＨＳＫ季刊わたぼうし」が30年、50年と継続し発行して頂き、障がいを持つ人たちのニーズに応え、ますます進化発展することをお祈り申し上げます。

<u>今寺　忠造(いまでら　ちゅうぞう)氏</u>

昭和60年４月、青山彩光苑に作業療法士として就職。風船バレーボールを考案し昭和62年より石川県作業療法士会主催の県大会を開催。穴水ライフサポートセンター施設長を経て、平成21年４月から青山彩光苑苑長に就任。

「HSK季刊わたぼうし」創刊25周年のあゆみ・テーマ表

NO	発行月日	西暦	テ　ー　マ	主な福祉ニュース
01	昭和60年１月29日	1985	※ついに出る「わたぼうし新聞」	S60　青山彩光苑の開設（重度更生援護）。
02	３月10日		※テレビニュースの取材から	(日拡)体位変換器など。
03	５月10日		ボランティアとは	S61　障がい者基礎年金制度の創設
04	８月15日		障がい者にとって家族とは	ディ・サービス、短期入所の事業創設
05	11月15日		私の体験	在宅障がい者のディ・サービス事業創設
06	昭和61年３月10日	1986	健常者から見た障がい者観	特別障がい者手当の創設
07	９月15日		障がい者にとって恋愛・結婚	施設入所者への費用徴収制度の創設
08	昭和62年１月10日	1987	新年金制度について	S62　「国連・障がい者10年」の中間年
09	９月15日		ともだち	社会福祉士、介護福祉士の制定
10	昭和63年１月１日	1988	介護とはⅠ	(日拡)盲人ワープロ共同利用制度導入
11	４月20日		介護とはⅡ	S63　(日拡)ワープロ、緊急通報装置
12	８月１日		介護とはⅢ	夏季ソウルパラリンピック
13	11月15日		介護とはⅣ	ショートステイ専用居室の整備
14	平成元年２月25日	1989	生きるとはⅠ	H1　青山彩光苑に療護施設が開設。
15	５月20日		生きるとはⅡ	(日拡)酸素ボンベ運搬車など。
16	８月20日		私の趣味Ⅰ	福祉工場定員引き下げ(20人以上)
17	11月20日		私の趣味Ⅱ	手話通訳技能認定試験の実施。
18	平成２年２月20日	1990	私のゆめ	H2　(日拡)重度障がい者用意志伝達装置
19	６月１日		私の自助具	授産施設の混合利用制度の創設
20	９月１日		障がい者と自動販売機Ⅰ	身体障害者福祉法の改正
21	12月１日		障がい者と交通機関Ⅰ	
22	平成３年３月１日	1991	障がい者と交通機関Ⅱ	H3　電動車いすの最高速度が時速6km
23	６月１日		障がい者と交通機関Ⅲ	H3　ほほえみの石川大会
24	９月１日		障がい者と自動販売機Ⅱ	
25	平成４年１月１日	1992	ほほえみの石川大会	H4　夏季パラリンピック(バルセロナ)
26	３月１日		障がい者の結婚生活Ⅰ	
27	７月１日		障がい者の結婚生活Ⅱ	
28	10月１日		健康管理と医療機関	
29	平成５年１月１日	1993	私の趣味＆娯楽Ⅰ	H5　青山彩光苑に療護施設の増設
30	５月１日		私の趣味＆娯楽Ⅱ	
31	８月１日		障がい者と施設Ⅰ	
32	平成６年１月１日	1994	障がい者と施設Ⅱ	H6　(日拡)文字放送デューダー)
33	５月５日		平井誠一さんのフランス旅行記	「障がい者や高齢者にやさしいまちづくり
34	７月25日		電話	推進事業」の創設
35	11月５日		※第三種低料郵便認可にあたり	
36	平成７年３月26日	1995	創刊10周年記念号	H7　障がい者週間(12月３日～９日)の決定。
37	４月10日		障がい者と阪神大震災	障がい者プランの策定(12月総理府)
38	７月16日		家族Ⅰ	H7 羽咋市社会福祉協議会
39	11月10日		家族Ⅱ	同ボランティアセンター開所
40	平成８年５月１日	1996	私とパソコン	H8　療護施設「金沢湖南苑」の開設
41	８月10日		※障がい者の住宅を考える	授産施設「青山彩光苑ﾜｰｸｾﾝﾀｰ田鶴浜」
42	11月20日		※障がい者の住宅を考える	身障者住宅「セェレーナ青山」の開設。
43	平成９年４月10日	1997	※北陸東海車いす交流市民集会	
44	11月10日		※ＭＲＯラジオメイトフレンティー	

NO	発行月日	西暦	テ　ー　マ	主な福祉ニュース
45	平成10年６月22日	1998	※18年ぶりの就労	H10　長野冬季パラリンピック
46	12月22日		※石川のひまわり号	
47	平成11年６月１日	1999	私の外出体験Ⅰ	H11　南陽園に療護施設「夢ようよう」
48	８月27日		私の外出体験Ⅱ	の開設
49	12月10日		私の外出体験Ⅲ	H12　介護保険制度のスタート
50	平成12年４月１日	2000	発刊50号記念に寄せて	きらりんピック富山
51	７月23日		私の介護体験Ⅰ	自立生活支援センター富山開設
52	12月10日		私の介護体験Ⅱ	
53	平成13年３月27日	2001	みんなの広場	「はくい車いす友の会・ゆうゆう」結成
54	７月３日		私の介護体験Ⅲ	
55	10月16日		支援費制度のＱ＆Ａ	
56	12月９日		障害者の日、ユニバーサル旅行	
57	平成14年３月１日	2002	Ｈさん・Ａさんとの懇談会	H14.4 療護施設「金沢ふくみ苑」の開設
58	７月３日		夢を実現したい、谷口 明広さんの講演	
59	11月13日		谷口 明広さんとのＱ＆Ａ	
60	平成15年３月３日	2003	もうすぐだよ！　支援費制度	
61	７月13日		支援費制度スタート	H15.4支援費制度スタート
62	11月14日		グループホーム視察旅行記Ⅰ	
63	平成16年４月15日	2004	グループホーム視察旅行記Ⅱ 南光龍平さんにインタビュー	H16.4 「青山彩光苑穴水ライフ」の開設
64	８月15日		はくい車いす友の会主催 平井誠一さんの講演会	
65	平成17年１月８日	2005	宮城県知事・浅野史郎氏講演１	
66	４月20日		宮城県知事・浅野史郎氏講演Ⅱ	穴水ライフ・デイサービス開設
67	８月20日		宮城県知事・浅野史郎氏講演Ⅲ	H17.8障害者自立支援法案の提出・成立
68	10月20日		「HSK季刊わたぼうし」20周年記念行事の報告集	「HSK季刊わたぼうし」20周年記念行事(はくい車いす友の会「ゆうゆう」と共催
69	平成18年２月10日	2006	障害者自立支援法を考えるⅠ	「障害者自立支援法」施行
70	６月23日		障害者自立支援法を考えるⅡ	
71	９月20日		障害者自立支援法を考えるⅢ	
72	平成19年２月８日	2007	連続学習会・私はこう生きたい	
73	５月18日		みんなの広場	
74	９月10日		武元七尾市長との懇談会Ⅰ	
75	11月10日		武元七尾市長との懇談会Ⅱ	
76	平成20年１月23日	2008	後石原さんとの懇談会Ⅰ	障害者自立支援法の見直し
77	６月13日		後石原さんとの懇談会Ⅱ	
78	９月27日		後石原さんとの懇談会Ⅲ	
79	12月８日		本田雄志さんと語るⅠ	
80	平成21年４月８日	2009	本田雄志さんと語るⅡ	地域サポートハウス「楽生(らつきい)」(羽咋市)開設
81	８月10日		本田雄志さんと語るⅢ	地域活動支援センター「ゆうの丘」(七尾市)開設
82	10月８日		本田雄志さんと語るⅣ	「小松陽光苑」改築
83	平成22年３月10日	2010	ライトレールで行く岩瀬浜Ⅰ	「HSK季刊わたぼうし」創刊25周年

※は特集やテーマでなく、トップに掲載された原稿。
★(日拡)は日常生活用具の拡大の略

(福祉ニュースの資料提供：青山彩光苑)

みんなの広場

もっと介護の現場に外国人を

増山　進

この前、テレビを見ていたら、外国人の介護士についてのことをやっていた。その時はインドネシア人とフィリピン人の介護の現場のことをやっていた。不器用ながらも一生懸命にやっている姿は日本人の介護士以上であった。しかし、インドネシア人とフィリピン人にとっての日本での介護の現場は過酷のもので、第一に言葉の壁がネックになってしまう。

ここで思うのだが、現在、日本人介護士または看護師は何人いるのだろうか？この先、だんだん高齢化が進み、介護する側よりも介護される側が多くなり、それだけ負担も増えるのではないだろうか？だから今、外国人（インドネシアやフィリピンやその他の外国人）が介護の現場に必要ではないだろうか？僕の友だちの中に通所老人介護施設に勤めている人がいて、そこの施設でも外国人の人を派遣として雇っているそうだ。だが、やはり言葉の壁がネックとなりどちら側も負担となっているのが現状だ。そこで思うのが、彼ら(外国人)を受け入れる側の日本が彼らを受け入れやすいようにすることが重要だと思う。まず日本語を学ばせ、尚且つ介護についての基礎を学ばせる。これは授業として昼間は介護を。夜は夜間授業として日本語を学ばせると言った形で彼らに言葉の壁を克服してもらうのだ。テレビの中で彼らが言っていたことは教科書が解りにくいということだった。これは彼らにとって、何事もない耐え難いものである。もし自分が何かを学ぼうとして、ぜんぜん判らない教科書だったらやる気がうせるかもしれない。それと一緒で彼らもはじめはやる気があっても教科書がチンプンカンプンだったらやる気がうせると思う。教科書も彼らが解りやすいようにするべきではないだろうか？教科書をもっと彼らに解りやすいようにすれば、彼らも介護に対して、意欲を持つのではないだろうか？また彼らが試験に落ちたら一回目で国に帰すのではなく、また新たにチャンスを与えるのも介護士を増やす道だと思う。ただでさえ、日本という国は介護士や看護師が少ないのだから、増やすコツを見つけないと･･･。

テレビで見た限りの彼らは、日本人の介護士よりも真心がある介護をしていたと思う。これから日本という国は、高齢化社会へと変わってゆくと思う。介護する側よりもされる側が多くなり、介護が手薄になることもでると思う。そこで彼ら（外国人）を介護という現場に入れれば、それだけ手薄なところが緩和され、介護されている側にとっても気持ちよく介護を受けられるのではないだろうか？また外国人を介護の現場に導入すれば、介護される側にとって、良い刺激になるのではないだろうか？

ともあれ、彼らを介護の現場に導入することによって、今までの介護よりももっとプラスになると思う。彼らを『雇ってやる』というのではなく、『協力をしてもらう』というのが、今後の介護の現場ではないだろうか?これからの介護の現場に外国人が当たり前にいることを期待したい。

ＨＳＫ毎月十二回（一・三・五・八・十・十三・十五・十八・二十・二十三・二十五・二十八日）発行
一九九四年八月四日 第三種郵便認可

地域のホットなニュース

プルタブを集めて車いすを贈る

昨年10月29日に七尾市立石崎小学校の児童４名、校長、教諭の６名が七尾市青山町の身体障害者更生援護施設「青山彩光苑」を訪れ、缶ジュース等のプルタブを2002年から児童や保護者、地域住民とドラム缶２杯分を集め、その収益で車いす２台を贈りました。

贈られた車いすは「青山彩光苑」の正面玄関に置かれ、苑へ訪問される障がいのある方、お年寄りに大変喜ばれて利用されています。

※お断り：発行日はＨＳＫに加盟している各機関紙にＨＳＫの事務局より割り当てられるものです。

年間協力会員募集中

この機関紙は障がいのある人、ない人がそれぞれの考えを出し合う中から、互いに理解を深め、共に生きる豊かな社会づくりを目的として、有志により発行しています。

つきましては、主旨に賛同して協力会員になっていただく方々を募集しています。

この会費で、在宅障がい者や福祉関係機関等に送付していますので、機関紙一部の料金ではなく、年間協力会費として扱っています。

年間協力会費：２，０００円
会 費 振 込 先：郵便振替口座
振込先名義：わたぼうし連絡会
００７５０－６－９７９１

編集後記

新年を迎えいかがお過ごしでしょうか。

創刊当時は雪深い年が続いていました。最近は温暖化の影響で楽な冬だと思っていましたら、急激に雪が降り驚いています。

「HSK季刊わたぼうし」は新年１月に創刊25周年を迎えることが出来ました。皆様の長年のご協力に深く感謝を申し上げます。これからも親しまれる機関紙を目指していきたいと思いますので、よろしくお願いします。(Z.0)

川柳裏表紙

公約の　賞味期限は　すぐに来る

去る8月に総選挙が行われて、９月に民主党と他２党との連立政権ができた。選挙中マニフェスト(政権公約)として、あれこれ国民と約束してきたがその約束が‥‥。子ども手当、高速道路無料化、ガソリンの暫定税率廃止などどれも財政難を理由に雲行きあやしくなってきた。

選挙公約とは投票日までの口約束なのか？投票日が終われば賞味期限がもう切れてしまうのか？鳩山さんョ、私たち国民の生活を少しでも良くしてもらいたい!!参議院選挙も近いですョ。(比)

編集及び連絡先

「HSK季刊わたぼうし」ホームページ
http://jiritsusien.com/
メール：zen@san9.net

定価二〇〇円